

団体名	一般社団法人ミナー
助成額	100,000 円
申請事業名	日本で暮らす難民の孤立解消をめざしたグループワーク実施
HP	https://mina-a.jimdofree.com/

活動・事業報告

地域で暮らす難民は、経済的、精神的、言語などの理由から、自宅に引きこもりがちになり、地域とのつながりもなく孤立してしまうことが多くある。私たちは、難民が置かれている厳しい環境を鑑み、難民が地域の中で孤立しないように、また孤立状態を解消してゆくように、彼ら彼女らの居場所を作り、孤立防止や孤独の軽減に取り組む必要があると考え、助成期間中にグループワークを計 4 回実施した。

●9月21日(土):料理会実施。参加者7名(うち子ども1名)。豆腐を使ったヘルシー料理を参加者とともに調理した。経済的に厳しい生活を送る人もいるため、講師から安価に手に入る食材の紹介をした。单身男性の参加が多かった。

●11月14日(木):文教大学の福祉コースの教授および学生とともに、草加市の一般社団法人キャリアカを訪問。参加者6名(うち子ども1名)。地域の社会資源を知ってもらう機会でもあったので、訪問先の講師から保健所に関する情報提供をしたり、メンタルヘルスと自分でできるストレ

ス対処法の紹介およびディスカッションを行った。日頃の生活状況からストレスの対処方法が限られていることや、自身の置かれている状況について語る人がいるなど、予想以上にディスカッションは白熱した。訪問先の事業紹介をした際には、ボランティアをしたいと希望を述べる参加者もいた。

●12月14日(土):料理会(クリスマス会)実施。参加者13名(うち子ども4名)。ボランティア1名参加。参加者より事前にリクエストのあったぎょうざを皆で作りと、その他購入した料理とともに食事を楽しんだ。小さな子連れの女性も多く参加した。

●1月19日(日):フィールドトリップとして東京国立博物館を訪問。参加者4名。ボランティア1名参加。英語の無料ガイドのサービスを利用し博物館を見学した。参加者同士で顔見知りが多く、ランチタイムには日常会話で盛り上がることも、ボランティアによる即席の日本語教室も行われた。

助成金を受けての成果とその自己評価

料理会やフィールドトリップを実施した際、参加者同士で日常生活に関する事などについて話し込んだり、日本での滞在が長い参加者からまだ浅い参加者へ生活について助言する姿などが見られた。お母さん同士で育児情報を交換したり、会に参加しがてらスタッフに相談事を持ってくる人もおり、回を重ねるごとに場の利用のされ方が広がってきた。また、参加歴の長い参加者が新しい参加者を連れてくるなど、参加者内の口コミの力も実感した。

参加者は様々な事情から普段の行動範囲が限られているため、フィールドトリップの回では、外

に出て日頃行かない場所に行くことで多少の息抜きの機会となったようだ。訪問先でのディスカッションを通じて、日頃の思いを吐露したり、他者と意見を交わす時間を共有できたことも良かった。

参加者からは、料理会などのアクティビティの頻度をもっと上げてほしい、そのために自分が手伝えることはあるかといった反応があった。他に、ストレスが多いのでこのような「楽しむ機会」があるのは良いということや、お母さん同士で話せる機会があるのが良いという感想もあった。

今後の活動の展望

グループワークの取り組みを今後も継続し、引き続き難民の人たち同士をつながり作りを模索していく。それぞれの暮らす地域内でのつながりがなく孤立が課題であるが、数回のグループワーク実施の中では各々の地域とのつながり作りまでは実現できなかったため、昨年草加市の団体を訪問したように、まずは様々な地域リソースを知ってもらう機会を増やすなど、実施方法に工夫を要

する。継続的なグループワーク実施と個別の支援とを並行していく必要があると考える。

ただし、現在起きているコロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、人の集まるイベント実施を当面の間自粛することを余儀なくされているため、今後どのようなかたちでいつ実施ができるかなど先が見えない状況があり、つながりが途切れてしまうことも懸念される。



料理会の様子



支援者から頂いたカボチャを使ったサラダ

ビデオレターはこちらから

<https://youtu.be/kQORrEnSc1c>

